



中学3年生のインフル エンザ予防接種助成を

山田 忠晴 (公明党)



問／令和5年は、インフルエンザの流行により学級閉鎖等となる学校があり、特に高校受験を控える中学3年生の保護者は不安を感じている。安全で安心して子育てができる環境づくりを一層推進するため、中学3年生の接種に対して費用の一部を助成し、子育て世代の負担軽減に取り組みべきと考えるがどうか。

答／インフルエンザの予防接種は希望者に接種が行われる任意接種であり、対象者が限定されるため、現時点で接種に対する費用助成を行う考えはない。



福祉マップの情報発信は

問／障がい者や高齢者が外出や旅行等をする際、障がい者等の利用に配慮した施設等が分かりやすく記載された福祉マップの活用が広がっている。県ホームページに掲載されている「にいがたバリアフリーガイドブック」では、県内の公共施設等のバリアフリー情報を調べることができる。当市ではどう情報発信しているか。

答／市ホームページの「人にやさしい施設の紹介」のページに、県ホームページへの外部リンクを設置し、市民への周知を図ってきた。このたび、福祉関係のページにも外部リンクを設置し、さらなる情報発信に努めている。



通年観光の意義や 目指す姿を共有すべき！

安田 佳世 (久比岐野)



問／通年観光計画による効果の見込みは。

答／観光消費額を倍増させることが目標。民間ビジネスや観光サービスが創出され、歴史・文化遺産が継承されることを目指す。若者や女性が希望する多様な雇用の創出や、市民の愛着・誇りの醸成など、多面的な効果が期待できる。

問／計画では、観光に取り組み意義を地域課題の解決としている。その意義や目指す姿を、市民や地域とより一層共有していくことが必要ではないか。

答／市民との対話集会などの中で、地域で活動する団体や住民の意見を聴き、私自身が考えを伝えてきた。今後はパブリックコメントで広く市民の意見を募集するほか、広報上越などで丁寧に説明していきたい。

問／観光地域づくりに資する取り組みについて、地域から地域独自の予算事業として提案があった場合、市が全額を支出し、地域と一体となって取り組んではどうか。

答／現状は団体が主体となる取り組みが9割を超えている。取組内容の精査及び提案団体等との協議により、市として実施すべきと判断したものは、市が実施主体となって直営又は業務委託等で実施するケースもある。取り組みの意向がある場合、まずは総合事務所やまちづくりセンターに相談してほしい。



保倉川放水路 整備ルート示される

大島 洋一 (久比岐野)



問／関川流域委員会において、「関川水系河川整備計画の変更骨子(案)」について、どのような審議がなされたのか。

答／令和5年3月に関川水系河川整備基本方針が変更されたことを踏まえ、河川整備計画の変更を進めている。令和5年7月には河川整備計画の変更骨子案が示され、保倉川放水路の目標流量が毎秒900tに増加したことから、国に対し地域住民への丁寧な説明を求めたところである。また、令和5年10月の治水対策検討部会では、目標流量を安全に流下させるための複数の治水対策案を比較・評価し、科学的、技術的、経済的な妥当性が確認されたところである。

問／今後の保倉川放水路整備の進め方は。

答／令和5年12月8日の関川流域委員会、放水路の幅やルートを含む河川整備計画の変更原案が公表された。今後関係住民から意見を募集し、それらの意見を踏まえ変更案が作成・審議される予定。

問／放水路開削後の津波対策は。

答／最大クラスとされるL2津波では、国道8号南側の一部で浸水がありうる。市ではハザードマップ作製等の対策の検討や、国に対して総合的な津波対策の確実な実行を働きかけていく。



保倉川放水路ルート
(高田河川国道事務所提供資料)